

## 2016年度 鋼構造塑性設計小委員会 第1回 議事録

日 時：2016年6月11日（土） 13:00～17:00

場 所：建築会館 306会議室

出席者：五十嵐規矩夫（主査）、高松隆夫、玉井宏章、金尾伊織、岡崎太一郎、佐藤篤司、向出静司、  
岩間和博、石原清孝、聲高裕治（記録） [下線部＝欠席]

### 資 料

- No. 01-01 2015年度鋼構造塑性設計小委員会第7回議事録（案）
- No. 01-02 鋼構造関連の規準・指針の英文名称の統一（鋼構造運営委員会資料 No.01-16）
- No. 01-03 3版の序
- No. 01-04 査読に対する回答および対応 1章（玉井）
- No. 01-05 同 2章（玉井）
- No. 01-06 同 3章（玉井）
- No. 01-07 同 4章（五十嵐）
- No. 01-08 同 5章（金尾）
- No. 01-09 同 6章（佐藤）
- No. 01-11 同 8章（聲高）
- No. 01-12 同 9章（石原）
- No. 01-14 同 11章（岩間）
- No. 01-15 今後の作業確認 事項（五十嵐）
- No. 01-16 小委員会内の査読等で未対応箇所について（聲高）
- No. 01-17 鋼構造の変形性能 -部材ランクってなんだ？-（五十嵐）

### 審議議題

#### 1. 2015年度第7回議事録の確認

- 資料 No.01-01 に基づき前回議事録が読み上げられ、了承された。
  - 図などのファイルの提出方法については未確認であるため、五十嵐主査より事務局に問い合わせる。

#### 2. 鋼構造運営委員会の報告

- 資料 No.01-02 に基づき、鋼構造関連の規準・指針の英文名称の統一について説明された。
  - 本指針は、AIJ Recommendations for ~~the~~ Plastic Design of Steel Structures と修正される。（「AIJ」が加わり、「the」が除かれる）

#### 3. 指針全般に対する査読意見への対応方針の確認

- パブリックコメントを4/1から5/16まで募集した（当初は4/30を締切に設定していたが、HPのサーバ停止に伴い、締切を2週間延期した）。特に意見がなかった。
- 資料 No.01-03 に基づき、五十嵐主査より序の修正がない（査読意見なし）ことが報告された。
- 体裁等に関する指摘事項については、校正の際に十分留意して対応することを確認した。

- 資料 No.01-16 に基づき、これまでの未対応箇所について議論した。
  - p.26・4 「1次不静定であるから」という文節を削除して、1次不静定⇒2個の塑性ヒンジが必ず必要という誤読を避けることとした。
  - p.34・32 「 $n_{rh} < R+1$ 」と修正する。

#### 4. 各章の査読意見への対応方針の確認

- 資料 No.01-04～01-06 に基づき、1章～3章、付1に対する査読意見への対応方針を確認した。
  - 図 C1.3.1 については、(b)～(d)の  $M_p$  に達した断面に塑性ヒンジ (●) を付記することとした。
  - 図 C1.5.1 の  $\theta_u$  の位置は、●印からの垂線と横軸との交点とする。
  - p.29・4 「塑性ヒンジの仮想仕事量」と改める。
  - 式展開だけの場合は現状のままとし、式の導出の過程では、文を完結してから式を示すように改める。
  - 「長期荷重作用時」を「過荷重時」に改める。
- 資料 No. 01-07 に基づき、4章に対する査読意見への対応方針が五十嵐主査より説明された。
  - p.79・19: 「概ね」を削除
- 資料 No.01-08 に基づき、5章に対する査読意見への対応方針が金尾委員より説明された。
  - p.97・12: 形状係数の説明を「(=塑性断面係数/断面係数)」と記述する。
- 資料 No.01-09 に基づき、6章に対する査読意見への対応方針が佐藤委員より説明された。
  - 元結委員の No.30 の回答に、p.112 の行番号を追記する。
- 7章ブレースに対する査読意見への対応について確認があった。
  - 倉本委員の No.10 の意見は7章に対するものであるため、適切に対応する。
- 資料 No.01-11 に基づき、8章に対する査読意見への対応方針が聲高委員より説明された。
  - 倉本委員 No.11: ご指摘どおりに修正する。
  - 倉本委員 No.13: 「鋼構造では、一般に「パネル断面」は水平断面と認識されます」と回答の説明を改める。
  - 倉本委員 No.14: 図 C8.2.4 は  $Q_Y$  の妥当性を確認するためのものであることを追記する。
  - 倉本委員 No.15: 「反傾関係」を「係数の逆数」という主旨に改める。
  - 倉本委員 No.16: 8.3.1 項に、埋込み柱脚では柱母材の  $M_p$  を用いることを明記する。
- 資料 No.01-12 に基づき、9章に対する査読意見への対応方針が岩間委員より説明された。
  - 図 C9.2.5: 柱梁の節点が直角になるように図を修正する。
  - p.164・4:  $sM_i$  のうえに「- (バー)」を付ける。
- 資料 No.01-14 に基づき、11章に対する査読意見への対応方針が岩間委員より説明された。
  - p.232・20:  $M_I$  の「1」をローマン体にする。「 $=M_L$ 」を追記する。
  - p.233・33～35:  $N_F \rightarrow N_0$ ,  $\lambda_{c,E} \rightarrow \lambda_{c0}$ , (6.2.5a)  $\rightarrow$  (6.2.6a)

#### 5. その他

- 原稿のとりまとめ等のスケジュール
  - 6月24日(金) 修正原稿・回答書の提出締切

- 修正原稿 (PDF) と回答書 (Word) をストレージサーバにアップロード.
- 修正箇所が一目でわかるように朱書きする.
- 修正原稿のページ数が増えてもページ番号は元のままとする.
- ・ 7月22日 (金) 構造本委員会
  - 再査読完了の旨の報告を受ける (見込み).
- ・ 8月初旬 脱稿 (予定)
  - データの提出方法については別途連絡する (事務局への確認が必要).
- ・ 初稿チェック時
  - 索引を取りまとめる (事前に各章ごとに索引の項目を考えておくこと).

・ 講習会の日程と担当案

支部	候補日	会場	定員 (人)	担当						
				主題 解説	1~3 章	4~6 章	休 憩	7・8 章	10章	9~ 11章
				5分	40分	80分		30分	30分	45分
東京	①2/23 ②2/24	建築会館	200	高松	玉井	五十嵐		岡崎	向出	岩間
名古屋	①3/2 ②3/1 ③2/28	名古屋商工 会議所ビル	100	高松	玉井	佐藤		聲高	聲高	石原
大阪	①3/7 ②3/8 ③3/9	大阪科学技術 センター	100	高松	玉井	金尾		聲高	向出	石原 or 岩間

- ・ 講習会用パワーポイントの作成 (要領)
- ・ 講習会用配付資料の作成 (要領, 期日)
- ・ 次回小委員会 2016年10月5日 (水) @建築会館
  - ・ 積み残し課題の洗い出し
  - ・ 塑性設計指針のあり方に関する検討

以上